別紙－2

北上川圏域の課題と当面の進め方について

「北上川圏域の当面の進め方　４．水害・土砂災害対策の当面の進め方」より一部抜粋



北上川圏域の課題と当面の進め方

北上川圏域の課題と当面の進め方

目　次

1. 総合流域防災協議会について
2. 北上川圏域の概要
3. 北上川圏域の現状と課題
4. 水害・土砂災害対策の当面の進め方

附図　河川の治水安全度現況図

治水安全度の低い区間について、国、県が連携し治水バランスを確保するよう整備を推進します。

北上川では、流下能力の不足等により低い治水安全度となっている区間が多く残されています。現在、建設中の胆沢ダムの整備による洪水時の水位低減や、平成14年7月洪水により災害を被った砂鉄川について国、県と連携を図り一体的に整備を推進しています。

また、無堤及び狭小堤区間の解消を図るため、継続中の黄海地区、石鳥谷地区などで築堤整備を進めるとともに、一関市の夏川においては宮城県と連携を図り、千厩川は他事業との調整を図るなど、上下流等の治水バランスを確保するよう河川整備を推進します。

平成14年7月洪水時の石鳥谷地区

都市部における河川の流下能力確保の向上に努めます。

盛岡市街地においては、平成17年度に開運橋から中津川合流点までの築堤を行うとともに簗坂橋下流の、低地家屋を移転する等の整備を実施しました。

今後も支川中津川を含め河道断面の確保による流下能力の向上に努めるとともに、河川沿いの低地（河道部以外）については、市街地化を難誤するため災害危険区域の指定を促します。

また、木賊川においては、分水路の整備を先行することにより、治水効果の早期発現を目指します。雫川においては盛岡市と連携を図りながら上流の開発に伴う流出増への対応を着実に進め、洪水被害の軽減を目指します。

さらに流下能力が不足している矢巾町の岩崎川などの市街地の河川整備を進めるとともに、市街地の洪水対策として築川ダムや遠野市の遠野第二ダムの整備を推進します。